

石川県立美術館だより

第505号 令和7年11月1日発行

BIJUTSUKAN
DAYORI

令和6年能登半島地震・令和6年奥能登豪雨復興支援特別展
ひと、能登、アート。



重要文化財《風神雷神図屏風》尾形光琳 東京国立博物館蔵
－「ひと、能登、アート。」より－

■ 加賀藩の美術工芸Ⅰ【前田育徳会尊經閣文庫分館】

■ 久隅守景の四季耕作図【古美術】

■ ロック&メタル【近現代彫刻】

■ 優品選【近現代絵画・彫刻】

■ いしかわ工芸図鑑！【近現代工芸】

- 展覧会回顧 足立美術館所蔵 横山大観と北大路魯山人
- ミュージアムレポート 0才からのファミリー鑑賞会2025／学校出前講座がはじまりました！
- 学芸室こぼれ話
- 11月の行事予定
- アラカルト ただいま展示中

企画展(第7～9展示室) 令和6年能登半島地震・令和6年奥能登豪雨復興支援特別展 ひと、能登、アート。

主催／石川県立美術館・金沢21世紀美術館・国立工芸館・石川県・金沢市・東京国立博物館 共催／北國新聞社

11月15日(土)～12月21日(日) 会期中無休 ※初日は開会式後(10時頃)の入場となります。

金沢21世紀美術館 令和7年12月13日(土)～令和8年3月1日(日)／国立工芸館 令和7年12月9日(火)～令和8年3月1日(日)

東京国立博物館をはじめ、美術館・博物館、大学などあわせて31超の所蔵者による、3館合計80件以上の作品を公開する展覧会を開催します。本展は、令和6年の能登半島地震・奥能登豪雨災害で被災した人々に寄り添い、心を癒し励ますために、東京国立博物館が立ち上げた事業「ひと、能登、アート。」の中核となるものです。

出品作品はいずれも本展のために所蔵者によって選ばれており、それぞれの作品に込めたメッセージが添えられています。文化財に関わる各機関の社会的意義を、強く認識いただく大きな機会となることでしょう。

石川県立美術館でご覧いただける作品のうち、東京国立博物館所蔵の指定文化財をいくつか紹介します。まずは国宝《元暦校本万葉集》です。巻二十には歌人・藤原顕家とみられる奥書があり、元暦元年(1184)に他の写本と校合を終えたと記されていることからこの名で呼ばれています。五万葉集の一つに数えられる貴重な作品で、今回は20巻のうち巻十七(古河本)を展示します。続いて重要文化財は、今号の表紙で紹介している、尾形光琳《風神雷神図屏風》、《鳥獣戯画断簡》、近代洋画からは、黒田清輝《湖畔》、岸田劉生《麗子微笑》、そして彫刻家・高村光雲の代表作《老猿》など、教科書でもおなじみの誰もが知る名品です。

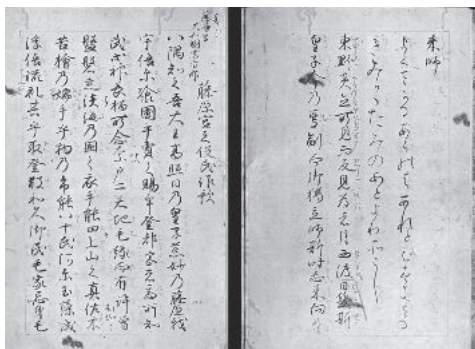
会期中3館がすべて開催中となる12月14日(日)、東京国立博物館



《見返り美人図》菱川師宣
江戸時代17世紀



◎《鳥獣戯画断簡》平安時代12世紀



●《元暦校本万葉集 巻十七(古河本)》(部分)
元暦元年(1184)

研究員による合同展示解説をおこないます。定員がある会場、申込が必要な会場もありますのでご注意ください。
ほかにも様々なイベントがおこなわれます。詳しくは本展チラシ、あるいは兼六園周辺文化の森ウェブサイトの展覧会紹介ページへアクセスしてご確認ください。

観覧料

一般 1,000円(800円) 大学生 800円(600円)
高校生以下無料

＊(一)内は65歳以上の方、または20名以上の団体料金。

能登(内灘町以北)の方は観覧無料。

＊被災後、能登から移住された方も無料。

＊精神障がい者保健福祉・療育手帳をお持ちの方、またはミライロIDをご提示の方および付き添いの方1名は観覧無料。

＊国立工芸館は同時開催の企画展「工芸と天気展」の観覧券でご覧いただけます。

兼六園周辺文化の森ウェブサイト

<https://www.hot-ishikawa.jp/kenroku-bunkanomor/>

※いずれも東京国立博物館蔵。●は国宝、◎は重要文化財

加賀藩の美術工芸 I

11月15日(土)~12月21日(日) 会期中無休

映像コンテンツ上映のご案内

本展開催期間中は、2階コレクション展エリアのVRシアターにおいて、通常のプログラムに加えて、特別な映像コンテンツを上映します。「ひと、能登、アート。」の映像事業として東京国立博物館とNHKが共同で制作した3DCG(3次元空間のコンピュータグラフィックス)を使い、NHKが制作した映像コンテンツ『8K×国宝「いま見つめる松林図屏風」です(1回:約26分)。

桃山時代に活躍した能登ゆかりの絵師・長谷川等伯が晩年に描いた謎多き名作、国宝《松林図

屏風》をじっくりと紹介するコンテンツで、10月16日まで石川県七尾美術館で開催された「長谷川等伯展」など、本作をご覧になられたことがある方ももちろん、実際に作品を見たことがない方も楽しめる内容です。会期中は、毎日11時30分から4回、15時30分から2回の、計6回上映を予定しております。どなたでも無料でご鑑賞いただけますので、展覧会とあわせてぜひご覧ください。

前田家16代利為によって、大正15年(1926)に公益法人育徳財団が設立されてから、来年で100周年を迎えます。それにあわせて、次年度春東京国立博物館にて特別展「百万石! 加賀前田家」が開催されますが、本館の展示室で紹介する作品も多く出品される予定です。

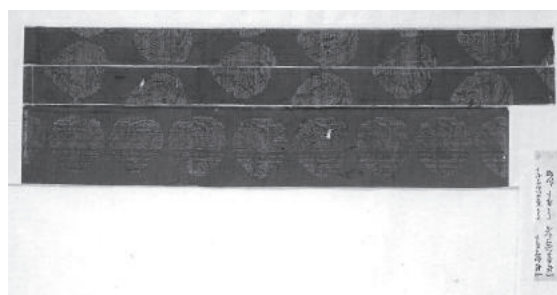
育徳会に所蔵される作品の大部分は、尊經閣文庫の文字どおり貴重な和書や漢籍ですが、本館では主に美術工芸品をお預かりし、公開しています。今特集では、その貴重な美術工芸品の中から、名物裂・能面・能装束・婚礼調度・鐘・絵画作品をご紹介します。美術館だよりでは3回に分けて、展示作品について説明します。

名物裂とは、中国など外国からもたらされた珍し

い裂のことで、主に茶道において珍重されたほか、掛け軸などの表装に用いられました。前田家は3代利常の時代に、大量の裂を長崎で買い求めたことで知られており、その質と量で国内最高のコレクションを形成しています。

名物裂は金糸を用いて織られた金襴のほか、緞子・間道・モールなど諸種類があり、鳥や植物、雲、宝珠など、さまざまなモチーフが用いられました。本館では、80種類以上もの名物裂を育徳会からお預かりし、毎年入れ替えをしながら紹介しています。今回の展示では、2回にわけて八種類の名物裂を紹介いたします。

あわせて、今回の展示では徳川將軍家とのゆかりの深い能装束・絵画・婚礼調度を展示しますが、詳細は次号といたします。



《興福寺金襴》

近現代彫刻(第4展示室)

ロック&メタル

11月15日(土)~12月21日(日) 会期中無休

木や粘土、石に金属。彫刻では多様な素材を用いて作品が生み出されています。その中から本特集展示では、「ロック&メタル」と題し、石(ロック)と金属(メタル)を用いた彫刻作品を取り上げます。

石や金属を用いた彫刻はどのような特徴があるでしょうか。石は硬い? 柔らかい? 金属は重い? 軽い? あるいは冷たい? こうした「素材」の特徴は制作方法や表現に密接に関わっています。作家たちにとって、素材を選ぶところから制作は始まっているともいえるでしょう。

大理石や御影石など、それぞれの石が持つ模様や色、手触りや風合い。そしてさまざまな石を彫り、刻み、磨くことによって生まれる表現と形。対してブ

ンズ、鉄やアルミニウム、ステンレスといった多様な金属と、それらの加工、溶接などを経て生まれる表現と形。一口に石彫、金属彫刻といいながらも、それぞれの素材が持つ特徴と生み出された表現は多彩なものであると同時に、私たちが彫刻を楽しむうえで欠かせない要素でもあります。

本特集展示から石彫と金属彫刻の素材、表現の魅力に触れていただき、石川ゆかりの作家たちが作り出す、多様なすがたと豊かな表現を持つロックとメタルな作品たちの世界をお楽しみいただければ幸いです。



山下晴子《SLIDE No.5》

古美術(第2展示室)

久隅守景の四季耕作図

11月15日(土)~12月21日(日) 会期中無休

久隅守景については、実は出身地や生没年などが分かっていません。しかし一時期加賀に滞在し、作品を制作したとみられ、当地に多くの作品が伝えられています。

守景は通称を半兵衛といい、無下(礙)斎、一陳翁、棒印などと号しました。江戸時代の狩野派の礎を築いた狩野探幽(1602-1674)に師事し、探幽門下四天王と称されました。探幽の姪と結婚し、その子どもたちも絵師となりましたが、やがて狩野派から離れ、各地を渡り歩くこととなります。守景の娘の雪は同門の男と駆け落ち、また息子の彦十郎は悪所通いによって狩野派から破門の後、佐渡へ島流しになっており、一説にはそれらの責任を取って自ら狩野派を離れたともいわれています。

今回特集する「四季耕作図」は、守景の加賀滞在中

に数多く制作されたと考えられています。「四季耕作図」は、中国において皇帝が農民生活に思いを致すために作られ、日本でもそうした鑑戒画としての側面をもつ一方、四季風俗画としても発展しました。通常、右から左に向かって季節が展開しますが、守景の場合、多くが左から右に向かう構図となっています。また人物や動物たちが生き生きとした様子で描かれているのが大きな魅力です。農村の人々や風景に対する守景のまなざしを感じていただければと思います。



重要文化財《四季耕作図》右隻 久隅守景

近現代工芸(第5展示室)

いしかわ工芸図鑑!

11月15日(土)~12月21日(日) 会期中無休

石川県は、九谷焼や輪島塗、加賀友禪、山中漆器、金箔など、多様な素材による工芸品が生み出されてきた「工芸王国」といえる土地です。これらは地域産業として根づくだけでなく、日展や日本伝統工芸展で活躍する作家や、在野で制作を続ける作家たちの存在によっても支えられています。

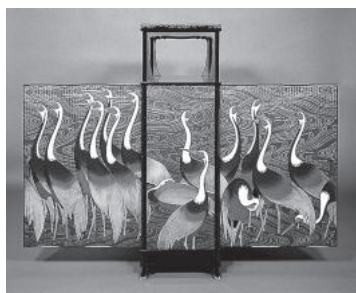
「木工芸」「沈金」「釉裏金彩」「銅鑼」「彫金」「髹漆」「友禪」「釉下彩」など、多岐にわたる工芸技術で重要無形文化財保持者(いわゆる人間国宝)を輩出しており、その人数は人口100万人あたり全国1位を誇ります。また、県立九谷焼技術研修所や県立輪島漆芸技術研修所、県立輪島漆器技術研修所、金沢美術工芸大学など、工芸を学べる教育機関も整っており、次世代

を担う若い作家たちが着実に力を蓄えています。

こうした工芸王国の源流は、江戸時代の加賀藩前田家による文化政策にあります。特に5代藩主・前田綱紀が組織した御細工所の活動が基盤となり、その精神は現代にまで脈々と受け継がれているといえるでしょう。

本展では、日本芸術院会員や人間国宝の作品をはじめ、多彩な技法でつくられた石川県の工芸をご紹介します。県内作家による茶道具のしつらえもあわせてご覧いただけます。さらに、漆工の粋を集めた松田権六の代表作《蓬萊之棚》も特別に展示します。

石川が誇る工芸の魅力を、この機会にぜひお楽しみください。



松田権六《蓬萊之棚》

近現代絵画・彫刻(第3・6展示室)

優品選

11月15日(土)~12月21日(日) 会期中無休

今回の優品選は、第3展示室で油彩画・版画・彫刻作品を、第6展示室では日本画を展示いたします。

日本画分野からは、日本の原風景を求め歩いた石川義の《山峡》を紹介します。北海道の層雲峡を描いた本作は、昭和35年の制作。日本はこのころ抽象表現全盛の時代で、日本画もその影響を大きく受けました。「自然」と「抽象表現」という、一見相容れない主題と表現に取り組んだ石川義の、苦悩が感じられる一作です。

油彩画分野からは、立見榮男の《竜神雷神逍遙》をご紹介します。四色の帯と竜神・雷神、古九谷の絵皿が交互に描かれ、斜線を多用した省略的描法と相まってリズムと空間を生み出しています。琳派に傾倒する作者の装飾的画風がよくうかがえます。

当館所蔵の銅版画から、堀井英男の色彩銅版画を

ご紹介します。色彩銅版画は、色彩を重ねる技術や色面の構成など高度な造形力を要求されます。国内外の国際版画展で活躍し、金沢美術工芸大学の版画の非常勤講師も勤めた堀井ですが、その天性のセンスと画力で高い完成度を見せる作品をご覧ください。

彫刻分野では、山本力吉《微風》をご紹介します。右手にぶどうの房を持ち、左足をやや前方に踏み出した、静かな動きを感じさせる女性像です。頭髮にはわずかなそよぎが表現され、落ち着いた雰囲気にあいまって、タイトルが示す《微風》を想像することができるとでしょう。



石川義《山峡》

ミュージアムレポート

0才からのファミリー鑑賞会2025

8月30日(土)、31日(日)開催

「0才からのファミリー鑑賞会」は、赤ちゃんからお子さんまで、ご家族で美術館での作品鑑賞を楽しむイベントです。当館では平成28(2016)年度から、NPO法人赤ちゃんからのアートフレンドシッ
プ協会・代表理事の富田めぐみ氏を講師に迎え、コロナ禍でのオンライン開催も含め継続的に開催しています。今年度は、8月30日(土)15時より・31日(日)10時より、13時30分よりの3回、1回に5組20名程度での募集をおこないましたが、受付開始数日で希望枠が埋まる反響の大きさに、作品との対話を心待ちにしていたのを実感しました。

今回は夏休みから2期に渡って開催した、作品の大きさをテーマにした第5展示室特別展示「みんな
のしむびじゅつかん おおきい・ちいさい」で行いました。今年はリピーターの家族が3分の1、参加したお子さんも2才から小学校5年生までと幅広い年齢の鑑賞会となりました。とはいえ、どのような年齢にも富田氏との鑑賞はとて入り込みやすく、保護者の皆様はじめに子供と接するときのコツなどを伺い、安心して作品鑑賞を楽しめました。手を挙げて発言するお子さん、先生やスタッフの手を引いてこつち！と活動するお子さん、仲良く作品を鑑賞する兄妹、それぞれに作品を見つめる熱い視線。1時間はあっという間でした。

今後も継続していきたい人気イベントのひとつです。皆様のご参加をお待ちしております。



みんなで鑑賞中

展覧会回顧

足立美術館所蔵 横山大観と北大路魯山人 —近代日本画の名品とともに—

7月5日(土)～8月17日(日)

本展は、島根県安来市にある足立美術館の所蔵作品のなから、横山大観をはじめとする近代日本画の巨匠と、器や書など様々な芸術分野で名品を残した美食家で芸術家・北大路魯山人の作品を合わせ、近代日本における芸術的個性をそれぞれの作品を通して感じていただく展覧会でした。また、足立美術館といえは想起されることの多いであろう「日本庭園」も写真パネルや映像で紹介する、またとない機会となりました。

横山大観の作品は、最初期の作品《無我》むがから始まり、晩年に描かれた《山川悠遠》さんせんゆうえんまで、画家の一生を作品で追うことができました。また、同作家の《龍興而致雲》りゅうおうてきうんは、津幡町出身の第75回横綱・大の里の化粧まわしに使われていて、本県と足立美術館との

縁を少なからず感じるものでした。
そして、足立美術館で500点以上の収蔵を誇る北大路魯山人の作品は、42点紹介しました。展示では時代順に並べるだけでなく、魯山人の器に料理を盛った「食と器」、九谷、織部、備前、中国陶磁などから取材した「色々な地域の器」、魯山人の絵画と同意匠の器を紹介する「絵画と器」という3つの裏テーマを、設定していました。

今回のような遠隔地の美術館を紹介することも、地域の美術館として必要なことだと思います。今後も、他館の所蔵品展を開催するときには「県美らしい展示」と言っていただけに気を引き締めていきたいです。



学芸室こぼれ話

私が大学で美術史を学び始めたころ、ガイダンスで単眼鏡の購入をすすめられました。美術館や博物館で作品を見る時は、ガラス越しで照明も暗いことが多く、細部をよく観察するためには必須アイテムだからです。当時の私にとっては奮発して1万円ほどのものを購入しました(右)。時を経て学芸員として採用された頃、この仕事をがんばるぞ、という決意を込めて6万円くらいの単眼鏡を買い、今でもそれを使っています(左)。以前使っていたものも大事に引き出しのなかに入れてあります。どちらの単眼鏡も、いっしょにたくさん作品を味わってきた相棒で、手に取ると、毎週のように展覧会へ出掛けていた頃の思い出がよみがえってきます。



中澤 菜見子(学芸第二課学芸主任)
「大切な相棒」

ミュージアムレポート

学校出前講座が はじまりました！

学校出前講座は、美術館へ足の運ぶ機会が少ない地域の学校を中心に、所蔵作品を展示し、本物の作品の魅力に触れてもらう取り組みで、平成17年(2005)度よりスタートし、本年度で20年目となります。

今年度は5校での開催となります。9月から11月にかけて小松市立荒屋小学校、白山市立笠岡中学校、加賀市立分校小学校、宝達志水町立志桜小学校、羽咋市立西北台小学校で、授業時間に合わせて講座をおこない、児童生徒、教職員の方々に参加いただきます。展示を行う作品は普段美術館の展示室で展示されている日本画、洋画、彫塑、工芸、浮世絵など合わせて14点ほど。当日は各学校の体育館を美術館に変身させ、鑑賞を行います。

授業では作品からみつけたもの・感じた自分の思いなどを言葉で表現をしていく対話型鑑賞を用います。会話にすんなり入っていきけるように、どきどきする・こまっているなどのことばにあてはまる作品を探してみるアートゲームをウォーミングアップとして行い、気負い無く鑑賞に望めるようにしてスタートします。その後、一つの作品についてじっくりみる・考える・はなす・きくという活動をクラス全員でおこない、個々に違う作品の見方への共感や、見ることの楽しさを感じることを中心に、作品鑑賞を気づきでいっぱいにし、楽しく深めていきます。初回校の小松市立荒屋小学校では自分の気持ちを素直に表現でき、色々な見方をしたいとわかって良かった、楽しかったという感想等をいただきました。



たくさんの発見がありました(小松市立荒屋中学校)

11月の行事予定

■対話で！作品鑑賞会

毎月第2日曜日、作品についておしゃべりしながらコレクション展示室を楽しめる日「のびのび鑑賞デー」の恒例開催です。学芸員のサポートのもと、参加者同士で対話しながら作品鑑賞を行います。一人で鑑賞する時とは違った鑑賞の楽しさを味わってみませんか。

日時：11月9日(日) 11時～11時30分 *申込不要

集合場所：2階 コレクション展示室前

定員：10名程度(先着)

料金：要コレクション展観覧料

*友の会会員のみなさまは、会員証のご提示で無料

■第72回日本伝統工芸展 関連行事

①記念講演会

日時：11月2日(日) 13時30分～15時

演題：「ものづくり」としての工芸

講師：村上 隆(高岡市美術館館長、大正大学教授)

会場：石川県立美術館 ホール

*聴講無料 申込不要

②展示作品解説

日時：11月1日(土)～9日(日)

午前の部11時～、午後の部13時30分～

講師：日本工芸会会員ほか

■特別展「ひと、能登、アート。」関連行事

※各行事情報は本展チラシ、兼六園文化の森ウェブサイトをご参照ください。

《優子さん》 ゆうこさん

高30.5 幅21 奥行24.6 (cm)
平成11年(1999) 第53回二紀展

岩山豊郁 いわやまとよく

昭和4(1929)～平成13(2001)

実直に捉えられた女性の頭像です。

石が持つ色味、風合いが素朴な女性の風貌と相まって味わい深い雰囲気を感じさせます。本作は第53回二紀展に出品されました。

作者・岩山豊郁は写真に基づいた少年像や頭像をよく制作しました。《少年》や《Kさんの首》(どちらも当館蔵)のように石膏やFRPを用いた、塑像による作品を多く手がけた一方で、本作のような石彫作品には後年によく取り組みました。

40年に及ぶ作歴を経た石彫への挑戦には「粘土や石膏と違い、石は削ったらやり直しがきかない。少しでも過去の殻を破り、自分を鍛え直すことに取り組みたい」という思いがありました。

岩山豊郁は昭和4年(1929)輪島市で漆器業を営む家に生まれ、金沢美術工芸短期大学(現・金沢美術工芸大学)でも工芸科で漆工を学びました。そして金沢市内の中学校で教鞭をとる中で造形への興味を募り、独学で彫刻の道を進みます。27歳の時に彫刻家・長谷川八十の勧めによって二



紀会で作品発表を始め、教員とともに作家としての歩みが始まりました。同33年(1958)の第12回二紀展、同37年(1962)の第16回二紀展で褒賞を受賞、同40年(1965)には第19回二紀展で同人に推挙されるなどキャリアを重ね、石川を中心に彫刻家として活躍しました。

本作は第4展示室コレクション展特集「ロック&メタル」(11月15日(土)～12月21日(日))にて展示します。ぜひご覧ください。

次回の展覧会

令和7年12月27日(土)
～令和8年2月2日(月)
※12月29日～1月3日(年末年始)は休館

前田育徳会 尊経閣文庫分館		第2展示室
加賀藩の美術工芸Ⅱ		茶道美術名品展
第6展示室	第3・4展示室	第5展示室
書の美 【書】	優品選 【近現代絵画・彫刻】	優品選 新春を寿ぐ 【近現代工芸】

ご利用案内

コレクション展観覧料

一般 370円(290円)
大学生 290円(230円)
高校生以下 無料
※()内は団体料金
11月3日は第1月曜日より
コレクション展観覧無料の日

開館時間

午前9:30～午後6:00

カフェ営業時間

午前10:00～午後6:00

11月の休館日は
10日(月)～14日(金)

石川県立美術館だより
第505号(毎月発行)
2025年11月1日発行

〒920-0963
金沢市出羽町2番1号
Tel: 076(231)7580
Fax: 076(224)9550
URL: <https://www.ishibi.pref.shikawa.jp/>

石川県立美術館は電源立地地域対策交付金を活用して運営しています。

知識・経験ゼロから
デザインを学んで
在宅ワークを実現しませんか。

TRY IT, NOW.
Design Life

広告代理店が運営する **デザインスクール** 広告

キテンスクールの
オンライン授業なら…

1 オンラインで好きな時間に
マイペースで学べます

2 スキルアップ・副業・転職
独立・趣味に活かれます

詳しい資料の
ご請求はこちら

キテンスクール
〒569-0071 高槻市城北1丁目14-17
tel: 072-668-3275
運営/株式会社ウィット